

## イエスの告別説教：私の将来を導く神

メッセージノート (2022.5.1)

◆ **将来への不安**：私たちは将来の計画を思い描くが「人生、これからどうなるのか」という不安は心から離れない。

**ヨハネ 16:1-15** <sup>1</sup>これらのことを話したのは、これからどんなことが起こっても、あなたがたがくじけないためです。<sup>2</sup>会堂から追放され、いのちまでつけねられる身になることを覚悟しなさい。事実、あなたがたを殺すことで神への奉仕を果たすのだと、人々がとんでもない思い違いをする時が来ます。<sup>3</sup>父をも、わたしをも知らない人々のやりそうなことです。<sup>4</sup>いいですか。この警告をしっかりと心にとめておきなさい。迫害が現実起きた時、あわてふためかないですむようにしなさい。今までこんなことを言わなかったのは、しばらくの間でも、いっしょにいてあげられたからです。<sup>5</sup>しかし今、わたしは、わたしをお遣わしになった方のもとに行かなければなりません。それでもあなたがたは、わたしが何のためにそこへ行くのか、知りたくないようです。だれ一人、どこに行くのか尋ねもしません。<sup>6</sup>かえって、わたしの話を聞いて、悲しみに心が満ちています。<sup>7</sup>しかし、わたしが行くことは、あなたがたにとって一番よいことなのです。わたしが行かなければ、助け手である聖霊はおいでになりません。行けば必ずおいでになります。それというのも、わたしがその方を遣わすからです。<sup>8</sup>その方が来られると、世の人に誤りを認めさせます。罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いについて、人々は考え違いをしているのです。<sup>9</sup>まず、罪とはわたしを信じないことです。<sup>10</sup>正しい心を持ち、神と正しい関係を結ぶのは、わたしが父のもとに行き、もはやわたしを見なくなるからです。<sup>11</sup>さばきから救われるのは、この世の支配者がすでにさばかれたからです。<sup>12</sup>ああ、話しておきたいことはまだまだたくさんあります。それなのに、今のあなたがたには理解できないことばかりです。<sup>13</sup>しかし、真理である聖霊が来られます。その方の指導を受けて、あなたがたもいつか、すべての真理を知るのです。聖霊は、自分の考えを述べたりしません。ただ、聞くまを伝え、やがて起こることについても話します。<sup>14</sup>また、わたしの栄光を示すことによって、わたしに大きな栄誉を与えます。<sup>15</sup>父の栄光はみなわたしの栄光です。だから聖霊がわたしの栄光を示すと言ったのです。

◆ **今日の箇所**：弟子たちを残して天に戻って行くイエスは、不安におののく弟子たちに、「真理の御霊」が全てのことを教え導くと言われたが、その御霊が弟子たちに、そして私たちにして下さることについて教えている。

◆ 「真理の御霊」が私たちにすること

1. **人生を導く**：「指導を受け」(13)は、「導く(ホデイゲオー)」で、道を示すということ。その意味は、見知らぬ土地に初めて足を踏み入れた旅人が、道に迷わないように道案内をする、あるいは、ガイドとなるということ。

**詩篇 23**<sup>1</sup>主は羊飼ひ、わたしには何も欠けることがない。<sup>2</sup>主はわたしを青草の原に休ませ、憩いの水のほとりに伴ひ、<sup>3</sup>魂を生き返らせてくださる。▶主は御名にふさわしく、わたしを正しい道に導かれる。<sup>4</sup>死の陰の谷を行くときも、わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖、それがわたしを力づける。▶<sup>5</sup>わたしを苦しめる者を前にしても、あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる。▶<sup>6</sup>命のある限り、恵みと慈しみは、いつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り、生涯、そこにとどまるであろう。

- ・ 3節後半「主は御名にふさわしく」：直訳は、「御名にかけて」、「御名に誓って」で、「御名」とは、神ご自身を現すから、神は、「ご自分の責任にかけて」ということで、すなわち、「必ず」・「絶対に」導くと言っている。
- ・ 私たちの人生の旅路は、神の責任で守られ、導かれているということをもまず覚える必要がある。仕事、結婚、家族、健康、経済、老後と不安にさせる課題はあるが、神はご自身に誓ってあなたを導くと約束されている。

2. **励ます**：「くじけない」(1)は、「つまづく(スカンディゾー ←スカンダロン)」で、そこから、「スキャンダル」、

あるいは、「スカンダレースロン」が出ているが、後者（スカンダレースロン）は、知らずに触れると急に閉まる「パネ仕掛けのわな」のこと。したがって、この「くじける」、「つまづく」とは、「不意をつかれること」で、そのことで、神への信頼（信仰）から離れさせる原因（サタンの仕掛ける罠）となることを指している。

- ・ 「これからどんなことが起こってきてもくじけない」（1）とあったように、信じられないような事態が起こって来るのが人生の旅路である。そこで、つまづきそうになることは避けられないが、その時どうするのが問題。
  - ・ 詩篇 23:4 では、神が導くと言った直後に、あの有名な「死の陰の谷を歩む時にも、災いを恐れない。主が共におられるから」と続く。神が導かれるのなら、もう何も危険なことは起こってこないとは言っていない。人生の旅の中では、「死の陰の谷」を歩むことがあることを前提にしている。
  - ・ その理由は、主が共にいてくださって守り導かれるからであると述べる。ただ、それに続いて、何か不思議な言葉が、4節の後半に出て来る。神の「鞭と杖」が詩人を慰めたと。これは、どういうことか？不意の攻撃や誘惑に反応してしまい、神への信頼からではない行動を取ってしまったことへの反省と学習があったことがわかる。
3. 反対者への対応（8-11節）：クリスチャンが、神の御心を生きようとする時、世の人々に反感を買い、迫害の的とされることがある。しかし、そこで私たちは自己弁護をする必要はない。神が、してくださるとイエスは言う。
- ・ 「世の人に誤りを認めさせます」（8）：具体的には、罪、義、裁きについてか、神が彼らに示すと言う。聖霊は、クリスチャンを守ったり、励ましたりするだけでなく、攻撃して来る人々の心にも同時に働かれると言う。
  - ・ 「罪」を認めさせるやり方は、キリストの赦しを受け入れない限り、人の心は常に罪責感に苛まれ続け、不安の中に置かれることになる。これは、すべての人が信仰に入る前の心の備えとなる。
  - ・ イエスの「正しさ（義）」については、イエスが預言通り、十字架上で人類の身代わりの死を遂げられたことと、その死の束縛を打ち破り復活されたことによって、神の計画が正しかったことが証明された。
  - ・ 「さばき」とは、この世界を支配していた悪の勢力が、イエスの十字架による勝利によって、完全に打ち砕かれたことが証明された。
  - ・ これら3つの事実（真理）は、私たち信じる者たちにとって励みとなるばかりでなく、この事実を無視しようとする者たちの上に重くのしかかっているとイエスは言う。それゆえ、ここで自己弁護する必要はない。

詩篇 23:5 □ わたしを苦しめる者を前にしても、あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ、わたしの杯を溢れさせてくださる。

#### ◆ どうやって聖霊の声を聴くのか？

イザヤ 30:21 あなたが神の道を離れて迷っても、うしろから、「そちらではない。こっちの道を歩きなさい」という声が聞こえます。(LB)

ピリピ 2:12b-13 そういうわけだから・・・深い尊敬の思いをこめて神に従い、神に喜ばれないことから手を引きなさい。神は人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ、神が望まれる行いができるように助けて下さるので。

- ・ ここは、キリストの従順からの結論で、私たちは、「深い尊敬の思いを込めて神に従い、神に喜ばれないことから手を引きなさい」は、「恐れおののいて、自分の救いの達成（完成）に努めなさい」と訳される箇所。
- ・ 神の声が聴けるようになるには、手放していない心の偶像を神に委ねることにあると教えている。

適用：①あなたが今不安に覚えていることは何か？人の目？将来？家族？健康？経済？

②神は、そのことに関しても、責任を持って導くと言われるが、そのことをどこまで信じているだろうか？

③突然襲って来る攻撃に、神以外のものに頼ろうとする時、神はあなたに何を教えてこられたか？

④あなたが神の導きを聴き取るために今できることは何か？